

太平洋岸自転車道



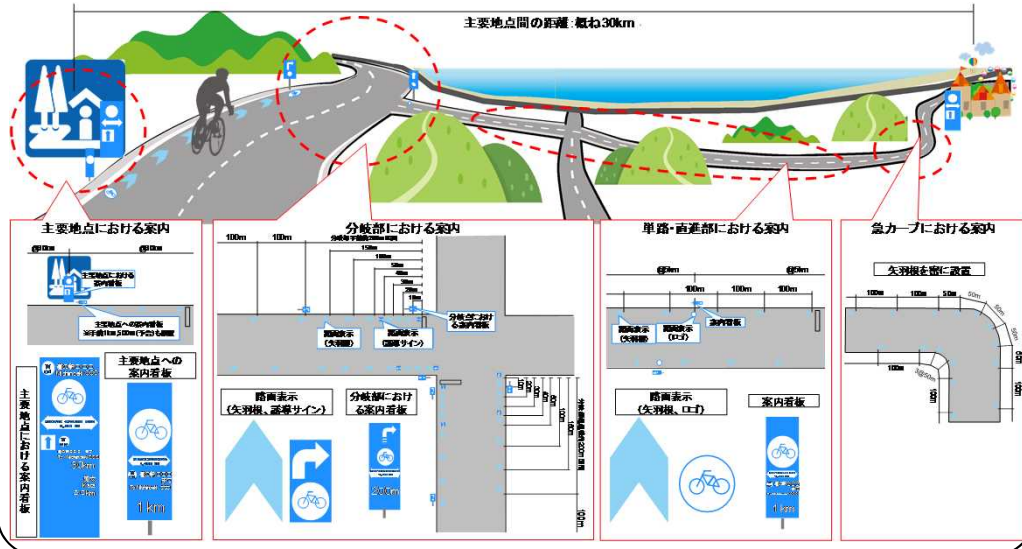
○太平洋岸自転車道構想の早期実現に向け、全線を通じた統一なコンセプトのもとで整備が進められるよう、基本的な方針について必要な検討や調整等を行うとともに、サイクリストの受入環境整備、魅力づくり、ICTを活用した情報発信を行う等、官民が連携した取組を行うことを目的に平成30年11月に太平洋岸自転車道推進協議会を設立

太平洋岸自転車道推進協議会：沿線6県の国・自治体で構成される協議会で、各県では道路管理者の他、民間の観光・自転車関係者を含む地区協議会（下部組織）をあわせて設立

快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

○自転車走行空間の整備・ルート案内サインの整備

・2020年（オリンピック）までを目標に以下の統一コンセプトに基づき、整備を推進



サイクルツーリズム推進のための取組

○統一ロゴの作成 ※右上参照

○路線MAP・HPの作成

- ・各地域でHP・MAPによる情報発信していくことを基本とし、必要に応じてその他の情報提供ツールを活用した情報発信を行う。
- ・各地域のHPやMAPは、愛称・ロゴの活用、色合いなど最低限デザインに統一感を持たせることを検討。

○官民連携による取組

- ・各地域で共通のサイクルステーション認定制度を設け、認定を受けたステーションは、各地域のHPやMAPに掲載するなど、官民連携し、受入環境を整備する。その他、連携可能な取り組みがあれば、各地域で実施していく。
- ・なお、短期的には、地元の機運が従前より高く、サイクリストの拠点となり得るエリアを対象に、各地整と各県関係自治体が連携して先行整備区間を設定し、官民連携による受入環境の整備について検討・実施していくこととする。

太平洋岸自転車道の統一ロゴの決定・活用

- ・平成31年3月に開催された第2回太平洋岸自転車道推進協議会において、統一感を持った自転車道の整備の一環として統一ロゴを決定
- ・千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県の大学から募集し、応募された5つの作品の中から、協議会委員による投票により、私立横浜美術大学の学生さんが作成したもので決定

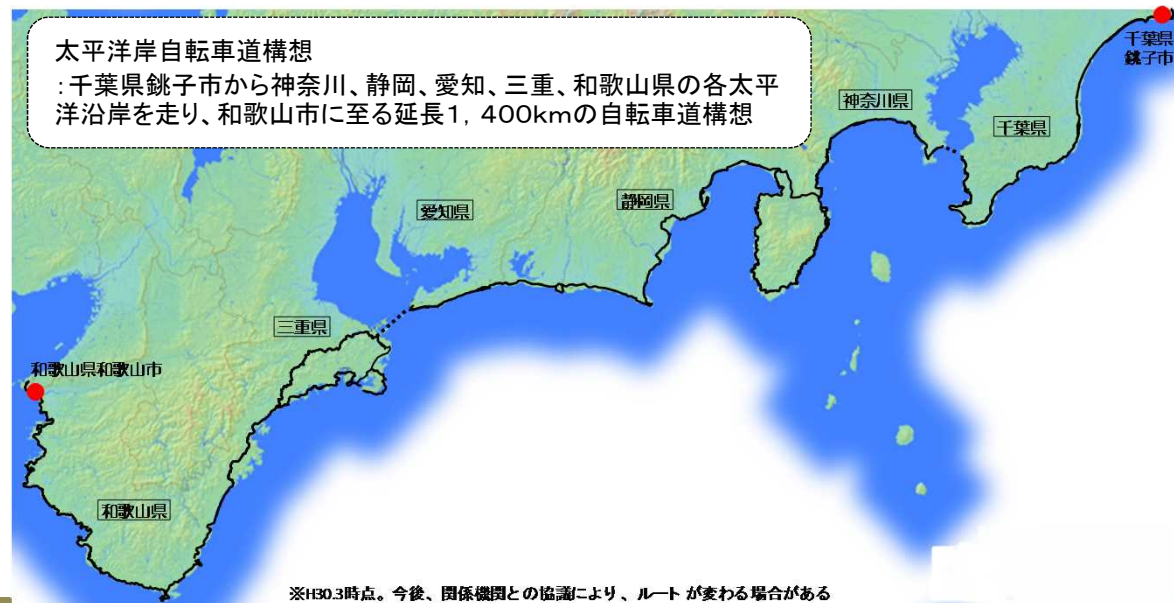


【デザインコンセプト】

- ・日本の代表的な吉祥文様の1つである青海波（せいがいは）をモチーフに太平洋の波をデザイン。
- ・自転車でスロートゥリズムを楽しむ国内外の観光客や、また海と共存している私たちにとっても日本の太平洋の美しさが印象に残るようなイメージ。
- ・六県にまたがる海からの大きな恩恵を6つの波に込め、暖かみのある青色は、穏やかで包み込むような大海原を表現。
- ・自転車はできるだけシンプルな表現で、どんな人にも見やすく、わかりやすい形を目指した。
- ・日本語バージョンは視認性の高さを、英語バージョンは斜体でスピード感を表現。

太平洋岸自転車道構想

：千葉県銚子市から神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山県の各太平洋沿岸を走り、和歌山市に至る延長1,400kmの自転車道構想



※H30.3時点。今後、関係機関との協議により、ルートが変わる場合がある